

「安心・活力・発展プラン2005」 第2回活力部会 委員発言要旨

日時:平成26年10月14日(火)10:00~12:00

場所:トキハ会館5階「ローズ」

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	・ある程度の規模がなければ後継者は生まれない。最低50頭規模以上の経営体を育成してもらいたい。そのために、リース畜舎は取り組みやすい形であるので、進めて欲しい。
2		・大手スーパーで大分の食材を大々的に売り込む話があったが、産地との調整で頓挫したと聞いている。県がタイアップするとか、卸業者を含めて団結して取り組めば、やれるのではないかな。
3		・スーパーに直販のコーナーがあるのは非常に良い。スーパーと直販がうまく機能している。もっとうまくやっていると、さらに地域の食材が一般の家庭レベルに伝わっていく。
4		・地産地消で県民向けにPRしてもらいたい。ブランド化で県外には頑張ってPRしてもらっているが、県民が知らないのではないかな。
5		・国は企業参入を進めているが、大分県は70%強が中山間地で条件不利地域。そういうところには企業参入は難しく、地域の農地は地域の住民が守って行かなければならない。そうすると集落営農だが、経営の実態は補助金・交付金頼み。自立できるように経営改革が必要である。
6		・農業は経営者と労働者が一緒。農業の将来を考えた場合、経営者と労働者を分離して、雇用型の農業を志向していく必要があるのではないかな。
7		・営農組織を作って農地を守って行きたいと考えている集落も多いと思うが、集落・組織を引っ張っていくリーダーがいない。
8		・県内には相当数の集落営農組織があるが、女性の組合長は一人もいない。女性の組合長、理事、役員がいても良いのでは。女性の活力の育成が必要。
9		・農業は事業継承がうまくいっていない。経験豊富な農家と新しく就農しようとする人をうまくマッチングする仕組みを作ってはどうか。良いところを受け継ぎながら、ITの活用など新しい技術も積極的に使っていくことも必要。
10		・肉用牛農家も、ある程度の規模で経営していても後継者がいないところがある。その場合は就農希望者とのマッチングが必要ではないかな。また、新規就農対策と後継者対策を一緒にやっていると、後継者対策も進むのではないかな。
11		・技術・経営管理を磨く場を積極的に作ってもらうとともに、規模に応じた研鑽のための部会を作ってほしい。経営規模に応じた部会でなければ、悩みの解決方法が出てこないのではないかな。
12	農林水産業 食育	・地元小学生に話を聞くと、地元産品であるブリの印象がかなり低い。そんなこともあり、小学生の工場見学を受け入れて、県産品のアピールを積極的にしている。学校給食でも県産魚を使ってもらっている。遠回りかもしれないが、小さい頃から教えであるとか、親しみを感じさせることで、県産品の消費につながっていくのではないかな。

No.	項目	発言要旨
13	農林水産業 ツーリズム	・地元の宿や施設が、地元の食材を使い、それを自慢しながらお客さまに召し上がっていただく活動が、足元でとても大切。食材と地元施設とのマッチングをやってもらいたい。
14	商工業 農林水産業	・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。
15		・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。
16		・地域の活性化には6次産業も必要。ただ、研修会では自己完結型の話が多い。農業者はものを作ることはプロだが、売るという能力は劣っているように思う。販売や加工にノウハウを持つ地域の食品企業と連結した取組が重要ではないか。
17		・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るという意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。
18	商工業	・5年間地元の高校の新卒者を採用してきたが来年度はゼロ。少子化の波が来ている。水産加工組合は人を欲しがっているが人がいない、という状況。外国人研修生を受け入れないと、産業を継続できない。受入れ側の人へのヒアリングをして、現状を知って欲しい。
19		・メガソーラーをやっているが、九州電力の再生可能エネルギーの買い取り中断の影響は大きい。エネルギーの出口戦略や将来を見据えた戦略を考えておかなければならない。
20		・ビックデータの活用を積極的に取り組んで欲しい。活用案のコンテストのようなものを開催して、良いものは事業化するのはどうか。チャレンジして新しいサービスを開発していけるような環境ができると良い。
21		・坐来は味や場所も良く、評判が良い。ただし、物産の展示や販売がなく、情報発信が少ないのではないか。
22		・従来もやっているが、ビジネスインキュベーションセンターをもっと活用すべき。インキュベーションとベンチャーファンドの連携をもっと密接にして、技術と経営、それをバックアップする金融が一体化することによって新たな創業ができやすくなる。
23		・CSRは対外的なことばかりじゃなくて、社内でリーダーを作っていくのに非常に有効なので、取組を進めてもらいたい。
24		・ワークライフバランスの実現を妨げていることに、長時間働くことが熱心に働いている証拠だという価値観が、まだ抜けていないこともある。若い人の意識はかなり変わってきたが、上に立つ経営者や幹部の方の意識が変わらないと実現しないので、その取組が何かできないか。
25		・女性を積極的に活用するために、会社内に託児所を作りたいと思っているが、保育士を雇うとなると色々な面でハードルが高い。近所のおばあさんを雇って運営できるような規制緩和を支援してもらえないか。
26	商工業 芸術文化	・今のものづくりはデザイン性が問われる。そこにヒントがあるのでは。アートと工業を組み合わせ、工業デザインで特色を出すというのも良いのではないか。

No.	項目	発言要旨
27	商工業教育	・小さな頃からITとか理系科目に親しめるよう、小さな子供向けのプログラミングの勉強会などを増やしてほしい。
28	ツーリズム	・観光客を受け入れるにあたり、サービス業のおもてなしのレベルに差がある。サービス業の人材を育て、おもてなしのレベルを統一するために、サービス検定の実施や勉強会を開催してほしい。
29		・外国人の観光客へのケアもまだまだ進んでいない。統一してみんなで情報発信できるといいが。
30		・ツーリズム戦略ができたことで、来年のDC誘致という目標を達成できた。情報発信もでき、これからは売り込みの段階。今度は、2020年の東京オリンピックに向けて、中期的なツーリズム戦略をやっていただきたい。
31		・おんせん県おおいたの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用してほしい。
32		・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないか。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないか。
33		・観光の面でおもてなしのレベルを一定以上に上げていくことが重要。一定規模の業者には県内で統一したサービスが提供できるように支援してほしい。
34	地域づくり	・人口減少下において、老朽化施設や学校、病院などインフラの再整備が必要となってくると思われるが、財政的な制約もある。PPPだとかPFIをどうやって活用していくかも観点になるのではないか。
35		・アート、農林水産品のブランド化、特産品の開発などは、金融面の施策としてクラウドファンディングがある。地域おこしでこの手法を活用してほしい。
36		・高速道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかという危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。
37		・これまで集会所を作ってきたが、今度は集会所がたくさんできすぎて、その維持管理が大変。いろいろなものを作るときには、10年20年先を見据えて計画することが大事。
38		・これから取り組んでいく課題は、行政だけでは解決が難しい。民間の力や地域の人材を活用すべきだが、人材が育っていない。地域をよくするという情熱を持った地域づくりのリーダー、人材育成が急務。
39	教育	・技術者の採用に大変苦労している。UIターンに力を入れているところ。大分出身者の大分愛は強いが、帰ってくるとなると教育の問題などがあり、子供が学校を卒業してから、というような判断になる。教育レベルを上げていくことが重要。